2013.1.29

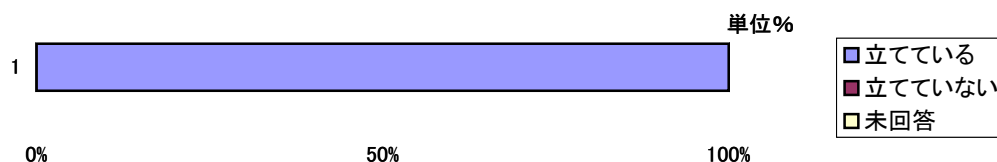
「印刷機メンテナンス」アンケート集計結果について

回答社数: 印刷会社10社
資機材メーカー5社（今回設問9のみ）

1. メンテナンス計画は立てていますか。 （単一回答） N=10

単位%

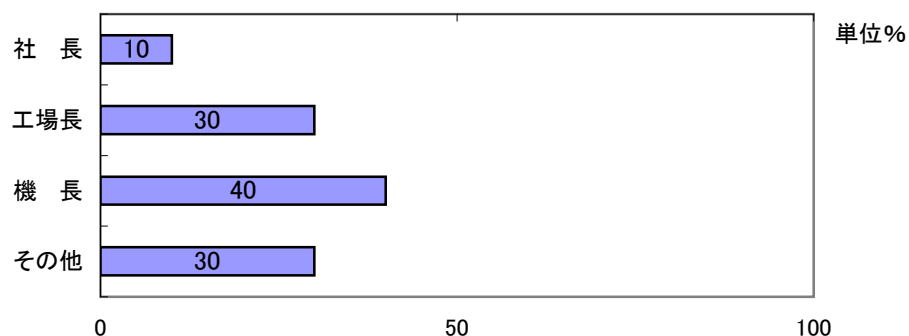
	立てている	立てていない	未回答
1	100		

0% 50% 100%

● 印刷会社からの回答は、10社すべてメンテナンス計画を立案している.

【計画策定者は？】 （複数回答）

単位%

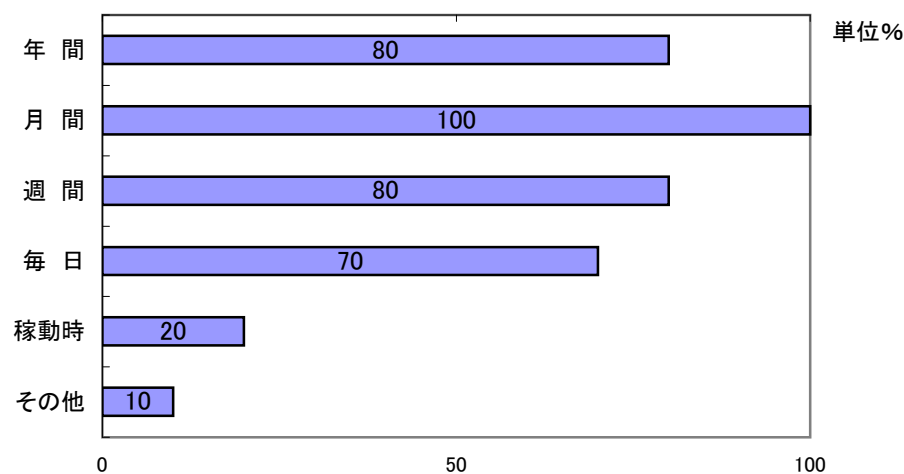
社　長	10
工場長	30
機　長	40
その他	30

0 50 100

● その他30%,3社につき、課長、印刷グループ長が策定.

2. メンテナンスの実施時期について （複数回答） N=10

単位%

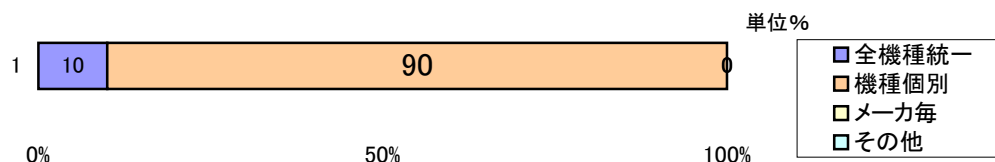
年　間	80
月　間	100
週　間	80
毎　日	70
稼動時	20
その他	10

0 50 100

● 実施時期に関し、月間では10社すべてをはじめ、週間、年間の複数回答も多い.
毎日については、70%,7社が対応している.

3. メンテナンス内容について　（単一回答）　N=10

単位%

	全機種統一	機種個別	メーカ毎	その他
1	10	90	0	

0%　50%　100%

● 10社のメンテナンス内容に関しては、機種個別が9社、90%を占める.
全機種統一で行う印刷会社は、1社に留まる. メーカごとの実施は無かった.

【計画策定者は？】

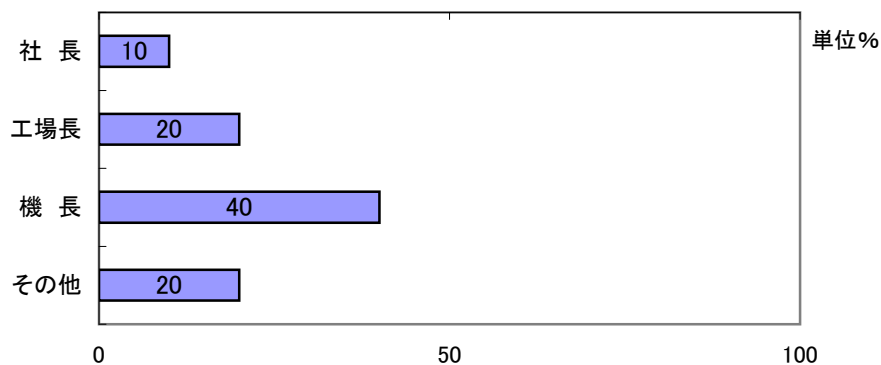
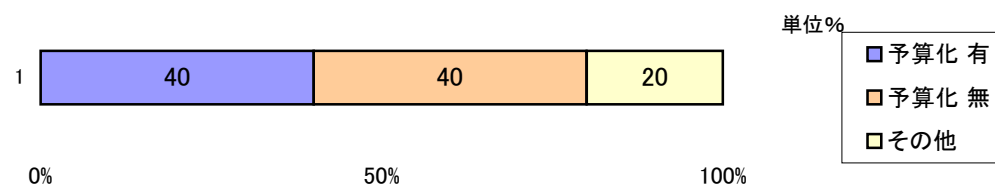
単位%

社 長	10
工場長	20
機 長	40
その他	20

0　50　100

4. メンテナンス費用について　（単一回答）　N=10

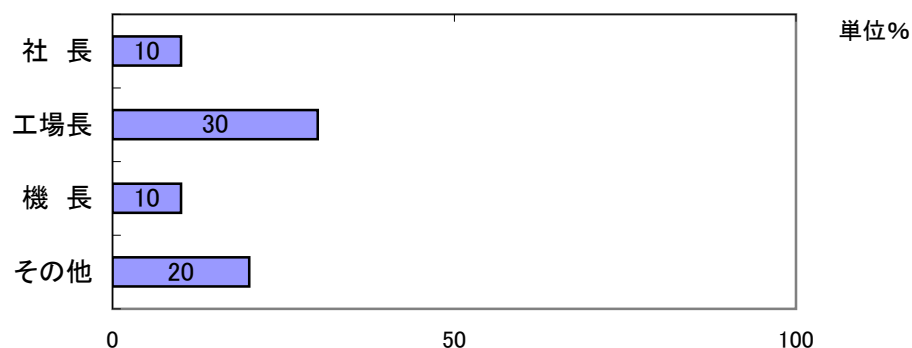
単位%

	予算化 有	予算化 無	その他
1	40	40	20

0%　50%　100%

● 予算化している先と、していない先は各40%,4社、一部予算化が20%,2社.
何らかの予算計上先は、全体10社中の6社となっている.

【予算化担当は？】　（複数回答）　N=6

単位%

社 長	10
工場長	30
機 長	10
その他	20

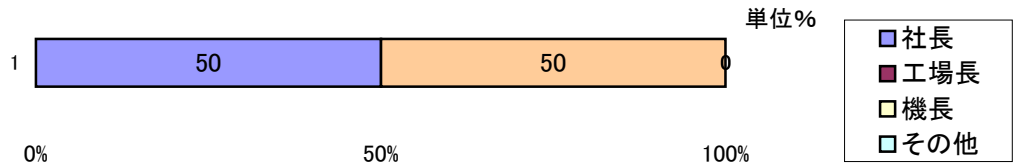
0　50　100

5. メンテナンス予算化（一部予算化含め）の場合　（基礎金額算出方法について）　N=6

○ 前年費用実績とメーカー保守金額参考にする	3社
○ 事前にメーカーと打合せの上、決定する	1社
○ 緊急でない不具合は見積りをとり、次期予算の参考とする	1社
○ 過去数年の実績とメーカー資料を参考と刷る	1社

6. メンテナンス費用を予算化している場合、決裁者について　（複数回答）　N=6

単位%

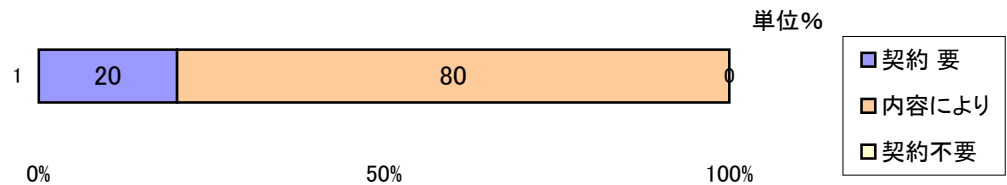
	社長	工場長	機長	その他
1	50	50	0	

0%　50%　100%

● メンテナンス予算の決裁者は、6社の中で社長又は工場長が各3社となっている.

7. 印刷機の定期点検契約の必要性について　（単一回答）　N=10

単位%

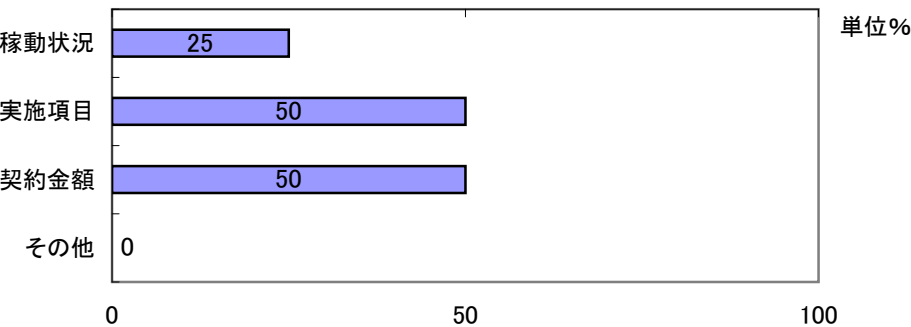
	契約 要	内容により	契約不要
1	20	80	0

0%　50%　100%

● 定期点検契約については、内容によって検討する先が8社と最も多い.

【内容により検討する場合、重視項目について】　（複数回答）　N=8

単位%

稼動状況	25
実施項目	50
契約金額	50
その他	0

0　50　100

● 上記のとおり、定期点検の「実施項目」と契約額がそれぞれ50% 4社、「稼動状況」は25% 2社が重視している.

8．機械メーカーの協力姿勢について　　　　　　　　（単一回答）　　　　N=10

単位%

1

90

10

0%

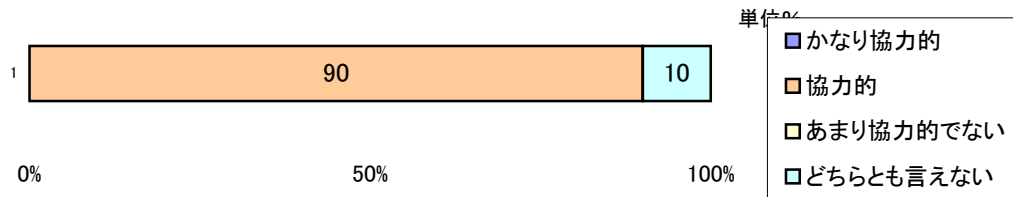
50%

100%

かなり協力的

協力的

あまり協力的でない

どちらとも言えない

●全体10社中9社が、メーカーの対応を協力的と評価している.

9．メンテナンスについてのご意見

＜印刷会社＞

○　メンテナンスが確実にできるスキルをもったオペレータが少なくなっている.
車の定期点検、車検のようなメーカープログラムがあればよいのではないか.

○　長期稼動によって生じる爪くわえの強弱バラツキやツボキーの一部しぶみ等熟練
オペレータでも調整に個人差や時間がかかるものは、メンテナンスの依頼をする方が
よいと考えます.

○　又、印刷機だけでなく、間接重要機材（主コンプレッサー、クーリングタワー、湿し水循環
装置等）をメンテナンス計画に組み込んだ方がトータル的なメンテナンスの見方と
トラブルの際の原因解明、対処策等の幅が広がると考えます.

○　高性能化、自動化する印刷機は、既にCTPなどと変わらない精密機器となっている.
安定して高品質な印刷物を作り続けるためには、印刷会社もメーカーもさらに進んだ形の
取組みを行うべき.（KOMATSUの様なサービス.）

＜資機材メーカー＞

○　ローラーメンテナンスのタイミング（ローテーション含む）が印刷会社によっては差が
見受けられる.　営業（納期管理）、工務（工程管理）、現場（品質管理）がうまく連携
することでタイミングよくローラーメンテナンスの時間が確保できることが望ましい.

○　一部に印刷機は停止せずに、使い続けた方が利益が出易いと考える方がいますが
トラブルによる停止時間の削減等にメンテナンスがとても効果的なことは間違いない.

○　印刷はさまざまな条件の複合体であるため、一定範囲内でのバランスが重要.
印刷品質の安定化のためには、機械、設備のメンテナンスが大変重要と考えます.

○　現場では、さらに目にみえる管理法の模索が必要と思う.　インキ、水、セッティング等
の組合せから発生する予期しにくい印刷現象をどのように解明し、ベストコンディション
を持続するか、研究テーマになるのではないか.

○　自動車の車検や人体の健康診断と同様に、印刷機の点検・診断を推奨します。
その結果により、要修理となったものを優先的にメンテナンスし、重大な故障を
予防する。自主的に取扱説明書や点検リスト等から検討しても費用の観点からも
実行の判断は困難と思います。

印刷OEM研究会